

■タイムテーブル

13:30～ 開場 (受付開始)

14:00～ 開会

第一部 「WORK FOR 東北」のご説明

14:10～ 第二部 パネルディスカッション [テーマ] 地域課題を解決するためのノウハウとは？

14:50～ 第三部 被災地受入団体プレゼンテーション

岩手県釜石市、宮城県石巻市、福島県浪江町、みやぎ連携復興センター、
奥会津復興センター、NPO 法人 ETIC. 他調整中

15:30～ 第四部 相談会

16:30 閉会

※時間、プログラム、登壇者、参加団体等は都合により変更となる場合がございます。

■パネルディスカッション登壇者

・パネリスト

菅野 孝明氏 (浪江町役場 復興支援専門員)

福島県川俣町出身。建設コンサルタント、進学準備教育企業を経て、2012年に福島に戻り、NPO 法人 ETIC の「みちのく仕事」浪江町復興支援コーディネーターに応募し、津波被災地復興支援を中心に活動する。広域分散避難している状況の中で町民へのヒアリングを通してニーズや課題の整理、自治体と現場の調整・計画の修正に携わりながら住民の合意形成支援を行う復興に向けたまちづくりなどを担当。コミュニティ形成支援や住民中心のまちづくり会議の運営サポートを行い、町民主体の動きを促進させた。

現在も引き続き浪江町で復興支援専門員として働いている。

山口 里美氏 (RCF 復興支援チーム UBS コミュニティ支援プロジェクト 現地統括 ※釜石駐在)

国際基督教大学卒業後、JICA 青年海外協力隊事業に参加し、村落開発普及員としてタイ王国で活動。帰国後、テレビ番組制作会社にてドキュメンタリー番組の企画制作を担当。震災直後は石巻でボランティア活動に参加し、中長期的かつローカルレベルで復興に関わる必要性を実感。RCF 復興支援チームの釜石コミュニティ支援事業に2012年8月より参加する。現在はそのノウハウを基に、釜石を拠点に、復興支援員の育成およびマネジメントを担当している。

・ファシリテーター

青柳光昌 (日本財団「WORK FOR 東北」事業統括)

1991年に日本財団に入会。阪神淡路大震災後の復興支援活動にはじまり、障害者の移動困難の解消、NPO 支援センターの強化といった市民活動のテーマに取り組む。2011年3月の東日本大震災後には、財団内に立ち上げられた支援センターのリーダーの任に就き、企業や行政と連携した数多くの支援事業に携わる。独タイムラー社との協働で東北のビジネスリーダー育成のための奨学金プログラムの創出や、復興庁との協働で実施している「WORK FOR 東北」プロジェクトなどを通じて、人材の視点から地域づくりに取り組んでいる。

■参加団体・募集案件 (一例)

岩手県釜石市

- 釜石市総務企画部総合政策課 (地方創生を支える人材の誘致につながるUIターン企画)

宮城県石巻市

- 石巻市6次産業化・地産地消推進センター (市内の加工業者の販路開拓/新設予定の生鮮マーケット運営に係るマネージャー/農林漁業者の総合的な経営支援)

福島県浪江町

- 浪江町役場 教育委員会事務局 学校教育係 (メモリアルヒストリーディレクター)
- 浪江町役場 産業賠償対策課 (「浪江町農業再生プログラム」コーディネーター)